

芦安中学校（後期）自己評価書

平成27年1月15日

南アルプス市立芦安中学校

校長 中込 幸二

1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員対象アンケート、生徒対象アンケート及び保護者アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月7日）

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 学校教育目標

〔達成状況〕

- ① 学校教育目標から出発した教育活動の展開、意識化については概ね良好な状況にあり、学校教育目標の具現化すなわち、「学習指導要領」・「山梨県学校教育指導重点」・「南アルプス市学校教育指導重点」に沿って学校経営方針を推進し、「芦安中教育」活動を行ってきた。それは本校のおかれている状況下のメリットを十分に生かしつつ、デメリットを少しでも克服し、他校に比肩すべく取り組んだ成果と言える。職員会議や校内研究を通して成果と課題を明らかにしている。
- ② 評価としては、前期とほぼ同様での肯定的傾向である。毎日の授業をはじめ、学校行事等においても学園祭・登山・文化祭さらにクインビアン市の中高生との交流などを通して、情操面を刺激することができたと思う。

〔改善策〕

- ① 前期同様学校教育目標を全教職員が意識し、その目標の達成に向けて、日々のすべての教育活動の中で組織的・継続的に取り組んでいき、PDCAサイクルを生かした教育活動の実施に努めたい。

(2) 学校経営・組織

〔達成状況〕

- ① 「校務分掌」については、前期（1学期）でもスムーズに機能していないことが挙げられたが、2学期もなかなか改善は進まなかった。盛りだくさんの活動と少ない職員が多くの仕事を抱え、一人ひとりがそれぞれの立場で職務を遂行する中、協働体制も整っていても、隙間が生じた時に、どうしても後手になってしまう。
- ② 校内研究については、2つの柱（学校教育全体を通したコミュニケーションづくりの推進、英会話科の推進・発展）を中心に取り組んできた。コミュニケーションづくりの推進では、英会話科の授業時はもちろん、合同朝の会でのスピーチ及びそれに対する感想発表、絆のつどいなどいろいろな場面で取り組み、しっかりした発表態度と内容を作りつつある。英会話科は日々良くなっていく様子が確認されている。研究主任や英語担当教師を中心に、職員全体で研究を進めることができ、生徒の成長につながる良い成果をあげることができた。クインビアン市の中高生との交流も、コミュニケーションづくりと英会話科の成果を試す絶好の機会となり、そこから多くのことを学ぶこと

ができた。バディーへ出した手紙が今後どう展開するか楽しみである。なお、小中連携という観点とも重なるが、小学校への英語絵本の読み聞かせでは、身振り手振りも入れながら発表し、小学生にも好評であった。コミュニケーションづくりの成果の一端と言えよう。小中学校で開催したハロウィンパーティーやクリスマス会も同様にコミュニケーションづくりの成果が見られた。事前の準備が重要で、その時間確保は大変であった。

- ③ 「報告・連絡・相談」の状況は、前期同様良好である。
- ④ 2学期中ごろ「芦安中学生のスタンダード」(学習)・(生活)・(インターネットの使い方)を作成し、生徒に配布した。これは、きまりとして既に文章化されているもののほかに、新たな課題や現状改善、曖昧さや慣れから派生する緩みを抑止するためである。状況に応じた適切な自己判断が理想であるが、必ずしも実行できていない中、一つの指標として学習他学校生活に効果を及ぼしている。

〔改善策〕

- ① 校務分掌の平均化は、現状を考えると難しい。手詰まり状態にならないように、学年あるいは職員全体でのバックアップ体制を計画的・組織的に行っていききたい。併せて教育活動全体の整理や統合を進め、成果と課題を明らかにし、共通認識と確実な引き継ぎを行いたい。
- ② 職員室が授業や生活における生徒の情報や指導方針を共有できる場として、今後も機能させていきたい。

(3) 学習指導

〔達成状況〕

- ① 授業「進度」は各教科共に概ね後期(2学期)も計画通りに実施できた。内容的にも基礎基本の充実はもとより、学習意欲の高揚なども意識して「授業改善」を行ってきた。それに対し生徒側では「意欲的に、、」「わかりやすいか、、」あるいは「授業でわからないことは先生にきいているか」という項目で、前期に比べ若干否定的な評価で、教師の意図と微妙なズレを感じる。「個に応じた授業」を意識して展開しつつも、「授業改善」の中で「生徒が主体的に学ぶ問題解決的な学習」や「生徒が学び合う授業」の取り組みに教師側がまだ不十分と感じているあたりが影響したのかもしれない。なお、学習成果を点数など数値で見ると、改善の傾向が確認できる。
- ② 家庭学習については、宿題も含め各教科での工夫も凝らして全校体制で取り寄せた。その結果、生徒の「宿題忘れ」「宿題以外の家庭学習」は前期に比べて改善している。一方、保護者アンケートの結果を見ると「家庭学習をしていますか」について半数が「していない」「あまりしていない」と回答している。また昨年同期と比べても「していない」という傾向が見られる。保護者は、子どもに対して高い要求を持っていることがうかがわれる。この気持ちを家庭学習の推進につなげる様に学校として働きかけたい。
- ③ 「英会話科の授業では、意欲的に取り組んでいますか」については、前期に比べて否定的な回答が減り、積極的に取り組もうとする様子がわかる。実際、理解度が向上して反応も良くなり、また自分の考えを伝えたり、受け答えの様子も楽しげであり、自信すら感じる場面もあった。教師側も「英会話科を通してコミュニケーション能力の育成が図られている。」は前期とほぼ同じ評価で、概ね良

好の手ごたえを感じている。クンイビアン市との交流もプラスに働いているかもしれない。

- ④ 道徳の授業では、1学期の道徳公開のような外部講師を招くような特別な企画はなく、資料等用いての日常の授業実施であった。「心から考えたり感じたり、」という観点では、生徒・教師ともに若干低下気味ではあるが前期同様全員肯定的な評価である。「道徳」に関しては道徳の授業を中心に、学校生活のありとあらゆる場で指導し、生徒の心に迫る指導を展開している。一方保護者からは「学校は生徒の心を育てる教育に努めているか」について否定的な評価が2割あり、期待に十分応えきれていないと考えられる。

〔改善策〕

- ① 「授業改善」をさらに継続・進展しつつ、次の段階として「友だちと学び合う学習活動」や「生徒が主体的に学ぶ課題解決的な学習」を意図的に組み、生徒が主体的に取り組み、成果を実感して自信を持つことができるような指導を実施する。
- ② 個に応じた指導（繰り返し指導，ドリル学習，その生徒に合った課題）により基礎的基本的な知識・技能の定着を図り，わかる喜びをもたせる指導を行う。
- ③ 家庭との連携を密にして，しっかりとした家庭学習の習慣化を推進する。
- ④ まなびの時や放課後の補習により，個別指導のさらなる充実を図る。
- ⑤ 外部講師や地域人材を活用し，学習意欲の喚起や学習活動の充実を図る。

（4）生徒指導

〔達成状況〕

- ① 学校生活について、「明るく楽しい」と感じている生徒は前期とほぼ同様か若干上向きである。ただ「あまり楽しいと思っていない」生徒も前期と同数いる。教師側でも「あまり明るく楽しく学校生活を送っていない」と感じる生徒がいるとの評価がある。大多数の生徒は「明るく楽しく」学校生活を送っているが，そうではない生徒が相変わらず数名いる。
「学年に仲良くしている友だちがいますか」は，前期と若干変化はあるが全員複数いると回答した。
「いじめ・仲間はずれ」については，「した」という自覚の生徒は0であったが，「時々された」生徒が1名。前期より減っているが「した」「された」の受け取り方の違いが出ており，恒常的ではないが，当人に嫌な思いをさせる言動があったことがわかっている。
- ② 「困った時に相談できる友だち」がいない生徒は前期と同数いる。「困った時に相談できる先生」については，改善の傾向がみられるが，「いない」という回答もある。教職員側は「生徒の声を受け止める」「相談や悩みに誠意を持って対応する」姿勢を積極的にし，生徒の不安解消に努めている。なお，生徒の中には「自力解決に努めるから先生には頼らない。」というケースもある。
- ③ 生徒の中には個別指導が必要になるケースもあるが，全体的に前向きな姿勢で物事に取り組んでいる。
- ④ 生徒指導上で気になることは，教職員にすぐに報告・連絡され，素早い対応が図られてきた。生徒もその指導に対して素直に受け入れ，態度を改めている。ただし，生徒指導ばかりではないが，教職員側の指導方法や内容に反省点もあった。
- ⑤ 「言葉づかい」「あいさつ」については，生徒と教職員の評価に多少の違いは認められるが，概ね

前期より改善されつつある。「気づいたらその場で」という取り組みの成果か。しかし「まだ道半ば」の感がある。保護者アンケートでも同様な傾向が認められる。なお、地域の方々からは「中学生がいつも気持ちの良いあいさつをしてくれている。」「他地域で行うようなあいさつ運動は芦安地区ではいらぬですね。」というコメントをいただくことがあり、校外での生徒のしっかりした様子の一端を垣間見ることができる。

〔改善策〕

- ① 集団生活の中での「個」と「集団」の成長と発展が図られなければならない。個として集団としてどうすべきかをしっかり理解し、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導していくことが基本にある。その上で例えば、あいさつや言葉遣い・態度などは従来通りその場で言い直しなどの指導を行い、その後の変容に対してもしっかり認めるような方針で取り組む。
- ② 生徒の指導には、情報を共有し、職員全体で支援・指導をしていく。また、スクールカウンセラー・関係機関・保護者と連携し、全員が学校生活に適用できるように地道な支援を行っていく。保護者に対しては、生徒が学校の様子を話すことを推奨する一方、「安心感」を持ってもらえるように連絡や説明をこまめに行う。
- ③ 普段から生徒の話聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるために、生徒と共有する時間を従来にも増して確保し、生徒の小さな変化や危険信号を見逃さないように注意を払う。教職員相互が生徒の情報交換を積極的に行い、指導方針を共有し合い、全職員が同じ歩調で対応していく。

（５）学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

〔達成状況〕

- ① 大きな行事の白峰祭・全校登山・文化祭では、生徒が主体的に参画する部分もあり、意欲的に取り組んで大きな成果を得ることができた。全校登山は、体調などから欠席者もあったが安全面からしかたないと思う。他にも小さな行事がいくつか実施され、教職員は皆「生徒の人間的な力を育てるものとなっている」と評価している。ただし生徒の中には「学校行事に意欲的に取り組んだとは思っていない」という回答も前期より増えている。全生徒が意欲的に行事に参加できるように工夫し、成就感や満足感を共有させたいと思う。これらの行事には、多くの保護者や関係者に参加・出席していただき、関心の高さを生徒・職員共に改めて認識すべきと思う。
- ② 部活動（１・２年生）・太鼓・合唱活動・生徒会活動も、大半の生徒は意欲的に取り組んでおり、その成果を確認することができた一方、意欲的に取り組めない生徒が少しいる。なお部活動に対する意識や練習に向かう姿勢に差が生じ、ミーティングを重ねて解決を図った。
- ③ 言われたことは素直で前向きに取り組む生徒は多いが、自律性や自主的・主体的な取り組み、あるいは企画力などにおいてはまだ課題が残る。

〔改善策〕

- ① 生徒の自律性や主体性を育てるために、日常の学習や諸活動の中で、現状に満足せずに「最良・最高は何か」を意識させ、それに立ち向かわせながら、認める・褒める言葉かけも併せて意識的に行っていきたい。

(6) 家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

- ① 4月の授業参観から始まり、学校林への植樹・全校登山の支援・PTA奉仕作業・学校行事等、多くの保護者の参加・出席を得て、芦安中の特色や良さを理解していただき、感謝すると同時に、学校に対する期待も大きいことを実感した。
- ② 学校と家庭の連携や連絡については、学級通信や学校だより、HPで随時発信し、学校の今を伝えようとし、生徒もそれらを保護者にほとんど渡している。それに対して保護者からは「ある程度十分」との評価がある一方、「不十分」との評価がある。さらに「保護者の声をあまり教育活動に生かしていない」との評価もあり、生徒が「学校での様子を家族とあまり話さない」ケースがあるので、双方向のやり取りは不十分であったと考えられる。保護者としては、学校での様子や個と集団のかかわり、具体的指導等を知ることがやはり大事になる。したがって家庭との連携について課題があると考ええる。
- ③ 家庭学習や生活習慣に課題がある生徒も少数ではあるが見られる。
- ④ 「地域の行事・活動や組織との積極的な関わり」については、保護者も教職員も肯定的にとらえており、芦安ならではの感じがする。今後も同様な活動を続けていきたい。
- ⑤ 「PTA活動は、生徒の教育活動のために有機的に機能していない」との評価がいくつか寄せられている。自由記述がないので、具体的な事はわからないが、他校にない小中合同のPTA活動が母体となっている中で、課題があるということ、あるいは「もっとPTAを活用せよ」という提言であろうか。
- ⑥ 小中連携については、本年度は英会話科を中心として、昨年度と同様に連携が図られ、小中学生の交流も深められてきた。また、小学生の前で中学生が発表することは、ほどよい緊張感がありよい体験となった。

・小中連携会議（2回） ・英会話科推進会議（4回） ・小中連絡会（10回）
・合同朝の会 ・イングリッシュゲーム ・ハロウィンパーティ ・クリスマス会
・英語絵本の読み聞かせ ・芦安文化祭 ・合同合唱 ・若葉給食、やきいも集会による交流
・小中合同地区別集会（2回） ・6年生の中学校での授業体験&部活体験（予定）

〔改善策〕

- ① 学校からの発信は今までと同様に行っていききたい。さらに生徒ひとりひとりについて家庭との連絡を密にするために気軽に話ができる環境を作りたいと思う。例えば、行事等で来校・参観する機会に、学級担任と懇談できる時間を設定することなどがある。これはすぐにでも実施可能である。
- ② 個々の生徒の課題（家庭学習、生活習慣等）については、保護者との連絡を取りながら、学習習慣の定着や健全な生活習慣の育成を図っていききたい。
- ③ 改善策ではないが、今後も地域の人材の有効な活用や地域行事の参加を通して、地域社会との交流や協力体制に努め、「特色ある芦安中教育の環境整備」を進めていく。
- ④ 児童生徒の交流や教師同士の交流を図り、小中での課題を共有し、9年間を見通した教育活動を今後も進めていきたい。

(7) その他

- ① 特色ある学校とは、他と違う新しいものを作っていくだけではなく、わが校にしかない「強み」を出していくことである。本校には、登山を始めとする自然体験学習や英会話科、バドミントン、太鼓等の「強み」がある。ただ活動をこなすという視点でなく、どんな力を着けさせ、それをどう生かしていくかという視点でこれらを結び付け、教育成果をあげていく。
- ② 日々の教育活動が充実して行われるために、教職員一人ひとりがそれぞれの立場で職務の遂行に務めていく。それと同時に、「芦安中教育」をいっそう充実させるために、児童生徒や保護者、地域の方々から理解と協力を得て、計画的・組織的に学校運営に取り組んでいきたい。